

# SHOW HEY シネマルーム

  
Data

監督・脚本：ヘルム・サンダース＝  
ブラームス

出演：マルティナ・ゲデック / パス  
カル・グレゴリー / マリッ  
ク・ジディ

## クララ・シューマン 愛の協奏曲

2008年・ドイツ、フランス、ハンガリー合作映画  
配給 / アルバトロス・フィルム・109分

2009 (平成21) 年8月6日鑑賞

GAGA試写室

### みどころ

音楽映画には、著名な音楽家の人生と著名な曲に触れることができる楽しみが。しかして本作の人間面では、クララ・シューマンを中心としたロベルト・シューマンとブラームスとの三角関係めいたちょっと不思議な関係に注目！他方、音楽面では2つのピアノ協奏曲第1番の聴き比べ(?)と、交響曲第3番『ライン』創作のウラ話(?)に注目！こんな映画をみて、あなたの音楽面での教養水準もしっかりアップしなければ・・・。

\* \* \* \* \*

### タイトルをしっかりと！音楽映画から何を学ぶ？

音楽映画の最高傑作はモーツァルトを主人公とした『アマデウス』(84年)だが、古くはフランク・リストを主人公とした『わが恋は終りぬ』(60年) 新しくは晩年のベートーベンのごく一部を描いた『敬愛なるベートーヴェン』(06年)(『シネマルーム12』277頁参照)や『ラフマニノフ ある愛の調べ』(07年)(『シネマルーム19』374頁参照)などの名作がある。また『バルトの楽園』(06年)における日本初の第九交響曲の演奏もすばらしかった(『シネマルーム11』134頁参照)。

そんな音楽映画の系譜に、ロベルト・シューマン(1810年生)(パスカル・グレゴリー)とその妻クララ・シューマン(1819年生)(マルティナ・ゲデック)そしてそこにヨハネス・ブラームス(1833年生)(マリック・ジディ)を加えた3人のちょっと風変わりな(?)愛と音楽の人生を描く名作が登場。音楽映画からは著名な音楽家の人生や、そこから生まれた美しい音楽を学ぶことができるから楽しいが、さて本作から学べるものは？以下、私なりのポイントをいくつか指摘したい。

## ピアノ協奏曲第1番の聴き比べは？

本作はピアノ協奏曲第1番に始まり、ピアノ協奏曲第1番に終わる。とは言っても、始まりはシューマンのそれで、終わりはブラームスのそれ。他方、年代的には始まりは1846年、終わりは1859年だから13年も離れている。しかし、ピアノを弾くのはいずれもクララ・シューマンだから、三者の関係が面白い。

ピアノ協奏曲第1番で有名なのは、チャイコフスキーのそれ。またピアノ協奏曲第2番で有名なのは、ラフマニノフのそれ。

さらに、ピアノ協奏曲第5番で有名なのは、ベートーベンのもので『皇帝』。さて、シューマンのピアノ協奏曲第1番とブラームスのピアノ協奏曲第1番の聴き比べは？



(C) 2008 Helma Sanders Filmproduktion Integral Film MACT Productions Objektív Filmstúdió B.A. Produktion

## 交響曲第3番『ライン』をめぐるこんな物語が

私はブラームスの交響曲第2番とりわけその第2楽章が大好きだが、これはかなりの難曲。それに対して、シューマンの交響曲第3番『ライン』はすぐに親しめる曲だから、作曲や演奏は比較的簡単？いやいや、本作にみるロベルト・シューマンの苦勞をみていると、そんなことは口がさけても言えるはずがない。

シューマンがデュッセルドルフ市の音楽監督に就任したのは1850年だが、それによって与えられたお屋敷などの待遇面はすばらしく、それまでの演奏ツアー生活とは大違い。この生活を守るため、何ともしもい作品を書かなければと意気込んで創作活動に励むシューマンの姿が印象的だが、そんな時期に割れるような頭痛に苦しむようになったから大変。シューマンがライン川に身を投げて自殺したという話は中学校の音楽の授業で聞いていたが、それは不正確な記憶で、ホントは自殺未遂にとどまったらしい。もっとも、ひどい躁鬱病に苦しむシューマンは、交響曲第3番『ライン』を初演した3年後の1854年に自殺未遂騒ぎを起こした後、2年間入院し、1856年に46歳で死去したとのことだ。

なるほど、交響曲第3番『ライン』をめぐるこんな物語が・・・。

## クララ・シューマンはユーミン+ヒラリー？

私の独断と偏見によれば、近時の日本の女性アーティストのナンバー1はユーミンこと荒井由実(松任谷由実) 今から190年前の1819年に生まれたクララ・シューマンは、ピアニスト兼作曲家であるとともに指揮までできるから、あの時代の女性アーティストとしてはまさにユーミンと同じくナンバー1。他方、女性の社会進出が著しいアメリカで惜しくも史上初の女性大統領となれなかったのがヒラリー・クリントンだが、現在のオバマ政権のナンバー4の國務長官として重責をこなしているのは立派なもの。

本作をみてビックリしたのは、デュッセルドルフ市の音楽監督に就任した1850年当時のシューマン夫妻に8人の子供がいたこと。避妊手段が十分でなかった当時では当然かもしれないが、女性の社会進出が困難な19世紀半ばという時代に、8人の子供を抱えながらこれだけ社会進出を果たしたのはヒラリー・クリントン並み？

こんな風に、アーティストとしての視点と女性の社会進出の視点からクララ・シューマンを評価してみれば、意外に面白いのでは？



(C) 2008 Helma Sanders Filmproduktion Integral Film MACT  
Productions Objektív Filmstúdió B.A. Produktion

## ちょっと嘘っぱいが？

本作で興味深いのは、ふとしたきっかけで始まるシューマンのお屋敷での3人の共同生活。これはクララ・シューマンのみならず、ロベルト・シューマンもブラームスの才能を認め、ロベルトは自分の後継者とまで評価した結果だ。しかし、もともとクララを敬愛し

ていたブラームスの男としての面が出てくると、3人の関係はやバくなるのでは？当然誰もが描くそんな不安を本作は淡々と描いていくが、ある時期をもってブラームスがシューマンのお屋敷を出ていくことになったのは当然。さて、その間3人の間には愛情面と音楽面の両方でどんな葛藤が？

第2に興味深いのは、ロベルト・シューマンの死亡によってフリーになった(?)クララ・シューマンとブラームスとの関係。ロベルト・シューマンが死亡した1856年当時、クララは36歳、ブラームスは23歳だから、あれほどクララを愛していたブラームスと、夫を失ったクララとの間に何らかの男女関係が生じたとしても不思議ではない。しかして、ブラームス家の末裔に当たるといふ女性監督ヘルマ・サンダース=ブラームスが描く、シューマン亡き後のクララとブラームスの関係とは？

私に言わせればそれはちょっと嘘っぱいが、そんな関係があってもいいのかも？

## この女優の演技力に注目！

本作でクララ・シューマンを演じたマルティナ・ゲデックは、女性監督の演出にもかかわらず最後にはナマの胸を見せてくれるが、ドレスから少しだけ覗く豊満な胸が本作では一貫して印象的？彼女は音楽家ではなく舞台出身の女優だが、ピアノを弾く姿やオーケストラを指揮する姿を見ていると、かなり本格的なのが印象的。ミュンヘンで1964年に生まれたマルティナ・ゲデックが本作ではそんな風に華々しさを見せているが、彼女は『バーダー・マインホフ 理想の果てに』(08年)では、何とドイツ赤軍のリーダー、マインホフ役をやっていたからそのギャップにビックリ。

『グッド・シェパード』(06年)では、マット・デイモンやアンジェリーナ・ジョリーそしてロバート・デ・ニーロらのビッグネームのかげに隠れていた彼女(『シネマルーム16』252頁参照)の代表作となったのは『善き人のためのソナタ』(06年)。この映画で魅力的な女優役を演じた彼女を襲った大きな不幸とは？(『シネマルーム14』208頁参照)

ドイツ赤軍の闘士マインホフとは全く異質の、有名な歴史上の人物クララ・シューマンを演じたマルティナ・ゲデックの演技力に注目！

2009(平成21)年8月8日記



『クララ・シューマン 愛の協奏曲』DVD  
発売・販売：アルバトロス 税込価格：3,990円  
発売日：2010年1月8日